



清 泉

令和8年7月17日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

目に映る景色～日常の豊かさと、未来への一步～

みなさんに質問です。「山の絵を描いてください」と言われたら、画用紙にどんな『山』を描きますか。

①富士山のような単独の山 ②日本アルプスのような連峰 ③日本昔話に出てくるような丸い丘 ④その他
そして、その山の頂上の色は茶色、緑、それとも白でしょうか。

先日、富山在住の弟からこんなメールが届きました（実話です）。「富山ローカル情報誌にあった統計なんですけど、全国の未就学児に山の絵を描かせると8割が『三角の山（単独）』を描くのに対し、富山県の未就学児は8割が『のこぎりの刃のような山（連峰）』を描くんだってさ」

そうだと思います。「いつもの景色」としてそびえ立つ立山連峰の姿を、富山の子供たちは五感で捉えた、心の中にありのままの「リアル」として刻み込んでいるのでしょう。子供たちは、時折、大人に素晴らしい気づきを与えてくれます。子供たちの豊かな感性や生活の基盤は、日々見ている何気ない景色、家庭や地域の会話、何気のない関わり合いといった「日常」の中で、育まれているのだと改めて感じました。

【五感を生かすための「基礎的な力」を育む今年の夏に】日常の中で五感を働かせ、豊かな感性を発揮するためには、その土台となる「基礎的な力」が欠かせません。夏休みには、学校からの課題もあれば、自分で「やるぞ！」と決めた挑戦もあるでしょう。地味に思えることをコツコツと積み重ねることは、本当に「しんどい」ものです。何かと理由を付けて「今日はいいか……」と妥協したくなる自分との、静かなたたかひでもあります。しかし、だからこそ、物事を深く見つめる集中力や、粘り強さが育まれるのかなと思うのです。基礎的な力を確かな土台として、五感で得た刺激を自分の「知恵」や「感性」へと変換していく。そんな力を育む今年の夏にできるよう、私たち大人も、日常の尊さに改めて価値を見出してみませんか。

【2050年の主役たち】先日、大手自動車メーカーの研究所代表取締役 CEO と経理本部長のお二人による講演を聴く機会がありました。演題は『ものづくりはひとづくり～未来を拓くのは、技術ではなく人の成長～』。そこで語られたキーワードは「好奇心」。

現在、教育界では「次期学習指導要領」に向けた議論が進んでいます（学習指導要領は概ね10年に1度改訂されます）。その議論の中でよく「2050年」の推定データや「VUCA（ブーカ）の時代」という言葉が登場します。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、「先行き不透明で、将来の予測が困難な時代」とされています。こう聞くと少し不安になりますが、見方を変えれば「前例に捉われず、新しいことにどんどんチャレンジできるおもしろい時代」とも言えます。

先述の講演の中で講師の方が次のように話されていました。「2050年は、今の中学生が36歳～39歳となり、社会の中心として活躍している時期です。そのとき、自分がどう活躍しているか、その姿を中学校段階から考え始めることが大事です」と。そうです！これからの時代を生きる子供たちが、『好き』と『得意』をもとに、自らの未来を切り拓いていく。だからこそ、現在の日常の中でも、「私は何をしたいのか」「私は何を試したいのか」という気持ち子供たちがもっていてほしい。そんな子供たちの内側から湧き出る**好奇心**を、学校はもちろん、家庭・地域でも、私たち大人と一緒に「ワクワク」して、これからの時代を生きる子供たちを応援していきたいものです。

.....

「日常の体験（豊かな五感）」、「コツコツ習慣（基礎的な力）」、「ワクワク気持ち（『好き』と『得意』）」の3つがどのように機能し、子供たちがどう成長していくのかとても楽しみです。夏休みは学校という枠を越え、地域という大きなフィールドで子供たちは自分の力を試すことができます。もちろん法令順守と安全第一は絶対です。そのうえで、「やってみたい」「試してみたい」という子供たちを、私たち大人も目を輝かせて寄り添い、ともに未来を面白い姿勢でいたいものです。

